

公表

事業所における自己評価総括表(放デイ)

○事業所名	ほがらかファミリー音羽		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 1日 ～ 2024年 12月 28日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○従業者評価実施期間	2025年 1月 20日 ～ 2025年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9 (回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	【子ども主体の、楽しくバラエティに富んだ療育を行っている】 ・子ども主体・子ども主導の楽しい療育時間となるように、常に職員が工夫をしつつ、子どもに温かく関わっている。 ・水遊び等季節に合わせた遊びや、畑の活動、戸外活動などバラエティに富んだ活動をしている。 ・利用者家族や地域の方と一緒に多様なイベント（お祭り、マラソン大会、芋掘り、焼き芋、餅つき等）行っている。	・複数（2人～8人）の場合、それぞれの子どもの特徴を考慮して組み合わせを考えている。毎日、どのような活動を展開するか話し合う時間を設け、各職員がアイデアを出し合って立案している。 ・家族ぐるみ、地域ぐるみの楽しいイベントとなるように、職員が丸となって、立案・準備・運営を行っている。	・職員が実際に外部の魅力的な施設や遊び場に出掛け、子どもたちと楽しむためのアイデアを収集するなど、事業所内に収まる事無く外に意識を向けて研鑽を重ねる。 ・イベントにおいては、利用年数の長い子どもにも役割が担えるような工夫をしていきたい。
2	【保護者とのコミュニケーションを大切にしている】 ・保護者に送迎をしてもらうことにより、毎回利用時に職員と保護者が顔を合わせ、密にコミュニケーションを取れるようにしている。 ・必要に応じ、児童発達支援管理責任者と保護者との相談時間を持っている。家庭や学校、その他での心配事などに対する助言を行っている。 ・学校への連携訪問を行い、その内容について保護者に丁寧に伝える時間を取っている。	・療育終了後、その日の様子や成長していること等について職員が保護者に伝えている。また、職員から保護者に日頃の子どもの様子や保護者さんの困りごとについてお尋ねし、アドバイスをしたり、児童発達支援管理責任者との相談に繋げたりしている。 ・保護者からの要望に応じて、いつでも相談時間を設定し、家庭での子どもへの接し方・その他幅広くアドバイスをしている。 ・学校での子どもの様子や先生からの話、こちらが感じたこと等、保護者にきめ細かく伝えている。	・保護者が物足らなさを感じていないかどうか、職員が気を配り、満足のいくコミュニケーションを取ることに努める。 ・利用間もない保護者は、相談事があってもどうしたらよいかわからない場合があるので、こちらから声を掛けて満足のいく相談支援をしていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	【現状、行われているにもかかわらず、保護者に周知しきれていない支援等がある】 ・児童発達支援管理責任者による相談時間の機会がある事、災害時の対応、保護者同士が接する機会がある事について、実際行われているにもかかわらず、「わからない」「どちらともいえない」という回答が若干あった。	・契約時、「重要事項説明書」にて丁寧に説明をしているが、その時の説明だけでは時と共に記憶が薄れるのかと思う。	・メール、張り紙、お便り等で、定期的に周知する。 ・必要に応じて、こちらから相談時間設定の希望を募ったり、「保護者お喋り会」や「イベント」等保護者同士の交流の場に誘ったりする。 ・年に2回行っている「避難訓練」の様子を通信にてお知らせする際、「非常災害時の対応」について分かりやすくお伝えすると共に、保護者の目につく分かりやすい場所に掲示する。